

15地区サッカー協会



- ・(一社)札幌地区
- ・空知地区
- ・(一社)十勝地区
- ・北空知地区

- ・函館地区
- ・旭川地区
- ・室蘭地区
- ・道北地区

- ・小樽地区
- ・釧路地区
- ・苫小牧地区
- ・根室地区

サッカーの魅力を発信していくために

昨年度、(一社)札幌地区サッカー協会(以下:本協会)では、グラスルーツ事業部会の立ち上げについて、(公財)北海道サッカー協会(以下:HKFA)の2025年度要覧にて報告をさせていただきました。その後、HKFAも、気軽にサッカーに触れる機会を創出したり、サッカーファミリーを拡大したりする目的で「すきまフットボール部会」を立ち上げました。各協会が抱えているサッカー人口、登録者の減少という問題を解決するための手立てとして、サッカーの魅力を一人でも多くの方に知ってもらうこと、他のカテゴリーや委員会の活動を知ってもらうことは、これからの各協会の活動に必要となってくることは、言うまでもないことです。

本協会グラスルーツ部会は、2025年度いくつかの事業に挑戦しました。複数のカテゴリーの活動を同じ会場で行うことで、他のカテゴリーの様子を参加者や指導者、引率者にも知ってもらうための「SFAフットボーラー大集合」という事業もその一つです。キッズからシニアまでが一堂に会することで、どの世代でもサッカーを楽しむ環境が用意されていることを知っていただくことができました。また、「札幌ウォーキングフットボールクラブ」のお力をお借りした事業を通して、ルールという環境を工夫することで、誰もが同じピッチで一緒にフットボールを楽しめるということを伝えることもできたのではないかと考えています。また、幼稚園・保育園の巡回指導やキッズ年代向けの事業の充実を図ることで、幼いうちから運動の楽しさやサッカーの魅力



に触れる機会も提供することができました。

2026年度は、ワールドカップサッカー北中米大会があったり、Jリーグの秋春制移行に伴う北海道でのJチームのキャンプが予定されていたりと、北海道サッカー界への追い風が吹くことが予想されています。本協会としても、その追い風を味方に、HKFA、各地区協会と手を携えながら、「グラスルーツ事業」「すきまサッカー」の充実を図り、サッカーの魅力を発信し、サッカー人口、登録者の減少の歯止めとなるような事業を進めていきたいと思います。



一般社団法人
札幌地区サッカー協会
専務理事・キッズ委員
佐賀 主昌

広がる機会を力に、 地域と未来を育てる



今年はワールドカップ・イヤーであり、各国の戦術やトッププレイヤーの技術を観る機会も増えていきますし、競技規則についての理解も深まるかと思えます。また、Jリーグの秋春制が始まり北海道はシーズン前のキャンプ地として多くのJクラブが訪れます。子どもたちがJリーガーを間近に、そして直接触れることによって大いに刺激を受けることでしょう。次の日にはグラウンドでJリーガーや各国代表の選手になりきって仲間たちとボールを蹴る光景が目に見えます。ただ、これを“ほほえましい”だけで終わらせるのではなく、すそ野を広げる一つの機会とし、将来彼らが様々な形でサッカーに関わることで地区・地域を盛り上げる人材になることを期待しています。地区の事業の実施やフェスティバル等により女子の普及にも力を入れています。

クラブ・ウェルフェアオフィサーについては2～4種までのクラブで配置されるようになりました。今後は1種をはじめ、全チーム配置へ向けての活動を続けていきます。

実際の試合の場面では、うみしんフットボールパークの天然芝およびクラブハウスの改修が行われており、完了したのはこれまで以上によりよい環境でサッカーができるようになります。

渡島・檜山管内の人口も減少しておりますが、活動が縮小するのではなく、高い熱量で取り組みを継続していきたいと思えます。

今年度も皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



函館地区サッカー協会
理事長 山下 浩司

課題克服と発展を 目指す小樽地区の歩み

小樽地区では、少子化の進行・他地区への移籍などを背景として、チームの合同化など各種別で競技環境の再構築を課題として取り組んでいます。

競技面では、25年度はDIVERTIが全国0-30女子サッカー大会にて3位、北照高校(男子)が全道U-17フットサル選手権大会で優勝し、全国大会進出。また、CANALE小樽、北照高校(男子・女子)、Regaris小樽U-15、小樽corse'rioが、各トップリーグに参入しており、地区としての競技レベルの高さを維持しております。

組織面でも活発な活動を行っており、審判委員会はオンライン研修やリフレッシュ研修を通して、地区の審判員の気づき・向上を目指しております。2月14日には元国際審判員西村雄一氏を講師にお迎えし、講演会・審判研修会を行い、世界レベルでの審判員としての心構えをレクチャーいただき有意義な時間を共有することができました。技術委員会は、各種でトレセン活動を行い、選手の育成・発掘を行い、上級ライセンス取得支援・研修会を通じて指導者の質を高めています。規律委員会では、ウェルフェアオフィサー講習会を通じて安心・安全な試合環境づくりに尽力しております。また、チームにクラブウェルフェアオフィサーの配置も必須として啓発活動しております。

普及活動にも力を入れており、2日間日程で小樽フットサルカーニバルを開催し、キッズからシニアまで幅広い世代で交流を実施。キッズ委員会もフェスティバルや園巡回指導を通じて、子供

たちに運動の楽しさを伝え、指導者養成にも力を注いでおり、フレンドリーグを開催しU-10以下の子供たち楽しく競い合うことができる環境づくりを進め、普及の裾野を拡げております。

26年度は、望洋サッカー・ラグビー場の天然芝の改修工事も始まり、一般開放も含めて地域とスポーツのつながりを深めております。

小樽地区は、2033年の創立100周年に向けて、各委員会との連携を強化し、幼児からシニアの選手をはじめ、指導者・審判員、サポーターまで含めた「小樽地区サッカーファミリー」を強固にし、皆様と力を合わせ持続可能な協会の運営を進めたいと考えております。



小樽地区サッカー協会
理事長 當宮 行博

新体制の始動と 次世代育成への挑戦

4月に理事総会を開催し、役員改選をはじめとする組織編成を行い、事務局の新体制がスタートしました。新たな体制のもと、さらなる事業の充実と発展に向けて研鑽を重ねてまいります。当協会では、会長を中心に昨年度より企業・団体の皆様へ活動基金へのご協力をお願いし、普及・育成事業を支える基金の創設に取り組んでおります。これはHKFAの活動方針を踏襲したものであり、ジュニア、ユース、女子年代へのさらなる支援の充実を図ることが目的です。また、今年度からはキッズ担当委員会を新たに設置し、「すきまフットボール事業」の一層の普及と発展を推進してまいります。

協会事業として、3年目を迎える日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会において、今年度も「空知ラウンド」を担当する予定です。会場は夕張サングリンスポーツヴィレッジおよび栗山ふじスポーツ広場の2会場を予定しており、協会一同、微力ながら大会の成功に向けて準備を進めております。また、1種登録チームのBTOP北海道は、北海道サッカーリーグおよび北海道サッカー選手権大会で優勝するとともに、天皇杯 JFA第105回全日本サッカー選手権大会や全国地域サッカーチャンピオンズリーグ、国民スポーツ大会4位(滋賀県開催)で優秀な成績を収めました。これらの功績により、北海道サッカー協会からHKFAビジョン賞として表彰されました。3種年代においては、「岩見沢FC拠点校」が第64回北海道中学校サッカー大会で準優勝を果たし、空知管内からの全国大会出場としては40年ぶりとなる快挙を成し遂げました。また、中学女子サッカーチーム「岩

見沢FCルファヴェニール」においても、第33回北海道U-15女子サッカー選手権大会兼高円宮妃杯JFA全日本U-15女子サッカー選手権大会北海道大会で優勝、さらに第17回全道U-15女子フットサル選手権大会でも優勝を果たし、それぞれ全国大会への出場権を獲得しました。これらの成果は、選手たちの日頃の努力はもとより、指導者、保護者、関係各位の献身的な支援と、地域との連携を基盤とした独自の取り組みの積み重ねによるものであります。部活動の「地域移行」に対応した拠点校方式の先行導入をはじめ継続的な育成活動、さらには女子トレセン選手や「なでしこサッカースクール」の開催など、普及啓発と連携強化に向けた地道な取り組みの成果が結実したものと考えております。

一方、人口減少に伴う少子化が進行し選手数の減少など多くの課題に直面しておりますが、今後も競技力向上と普及活動の両輪を大切にしながら、地域に根ざした持続可能な育成環境の構築に努め、空知サッカーのさらなる発展に繋げてまいります。



空知地区サッカー協会
理事長 磯辺 正道

地域連携と育成強化が生んだ成果の一年

2025年は、大きく4点の活動が特筆されます。

1つ目は、10月・11月に開催された第10回北海道ブロックカブスリーグ決勝大会兼北海道カブス2部リーグ参入戦において、B.N.F.C U15が優勝し、北海道カブス2部昇格を果たしました。2026年からは、北海道コンサドーレ旭川U-15とTRAUM VITA FCの3チームが北海道カブスリーグに参戦することになりました。2026年度の活躍を期待したいと思います。

2つ目。8月29日(金)～9月2日(火)、旭川市と姉妹都市である韓国水原市との相互交流「日韓親善少年サッカー交流事業」が、韓国・水原市にて行われました。18回目の交流事業にあたり、旭川地区の小学生18名、中学生18名、役員12名・スタッフ6名の一行54名が韓国・水原市に行き、小・中学生、役員・指導者の交流試合を行いました。中学年代は、GS キョンス倶楽部と対戦し、水原の中で何十とあるクラブチームの中で競争している選手たちの質の高さを感じることができました。

3つ目。旭川地区サッカー協会チャレンジ委員会が直轄し、障害者就労支援事業所「なつみかん」の運営法人『希望の杜の会』、並びに、クラブ内に障害者サッカー部門を設置している『BIANCO NERO FC』との事業提携により2019年から活動している「B.N.F.C なつみかん」が、9月15日(月・祝)に栗山町で行われた第24回北海道チャレンジサッカー大会(8人制)において初優勝を果たしました。

また、令和8年2月15日(日)には、旭川市と協力して『ウォーキングフットボール in 旭川』を初開催しました。9歳から75歳まで幅広い年代40名の参加者を得て、楽しい時間を過ごしました。北海道サッカー協会が提案している「すきまサッカー」の充実や余暇支援、そして、様々な人たちがサッカーを通じてつながることのできる環境整備に対するうれしい結果であり、イベントとなりました。

4つ目。10月には、天然会場の整備ボランティアに、819名の参加を得て行うことができました。12月18日(木)には、「花咲球技場の改修」「東光スポーツ公園球技場の人工芝の張り替え」についての意見書を旭川市に提出させていただきましたが、それらも含め、まだまだ解決しなければならないものが多く存在します。これからも、サッカーを楽しくプレーするための環境整備のためにできることを一つ一つ取り組んでいきたいと思っています。



旭川地区サッカー協会
理事長 對馬 紀一

サッカーを通じてつなぐ、 世代と地域の未来

釧路地区を取り巻く環境は、人口減少や少子化の影響を受け、サッカー人口の減少という大きな課題に直面しています。しかし、そのような状況だからこそ、キッズ年代からシニア年代まで、種別を超えて多くの関係者が力を合わせ、サッカーの普及と発展に取り組んでいます。

サッカーは単なるスポーツではなく、人と人をつなぎ、地域に活気を生み出す力を持っています。釧路には、漁師町ならではの人情や活気、困難に負けない力強さがあります。そうした地域の魅力を大切にしながら、サッカーを通して子どもたちの成長を支え、世代を超えた交流を生み出し、地域全体を元気にしていきたいと考えています。「サッカーの力で釧路を盛り上げる」という思いを共有しながら、キッズから1種・シニアまでが一体となり、活気ある釧路の再興を目指しています。ここでは、各種別の主な取組を紹介します。

【キッズ】

毎年、4～6歳を対象としたサッカースクールを開催し、サッカーを通じた運動能力の向上や身体を動かす楽しさを伝えています。

【女子】

U-12・U-15・U-18の各カテゴリーでリーグ戦や大会に参加しています。また、トレセン活動の継続やSNSを活用した情報発信を行い、女子サッカーの普及に取り組んでいます。

【第4種】

U-9～U-12のカテゴリーでリーグ戦や各種大会を実施しています。また、友好都市である千葉県八千代市との交流大会を通して、地域を超えた交流を深めています。

【第3種】

リーグ戦や中体連、クラブユース選手権に参加しています。中学校部活動からクラブチームへの移行も進みつつあり、地域移行に向けた取組が進められています。また、フットサル北海道代表決定戦が本地区で開催されました。

【第2種】

道東ブロックリーグ、高体連、新人戦に加え、新たに選手権大会が釧根合同で開催されました。また、釧路北陽高校が静岡県で開催された第12回全日本ユース(U-18)フットサル大会に出場しました。

【第1種】

道東ブロックリーグや社会人リーグに参加し、競技力向上に努めています。また、フットサル全日本選手権大会北海道代表決定戦が本地区で開催されました。

【シニア】

昨年度に引き続きプレミアリーグを開催しました。さらに、ウォーキングフットボールを実施し、年齢・性別・障がいの有無を問わず、多くの方々にサッカーの楽しさを体験していただきました。

2026年度も各種別の大会に加え、高体連全道大会やフットサル全道大会など、多くの大会が釧路で開催されます。これらの大会は、釧路地区のサッカー関係者が種別を超えて支え合うことで実現しています。人口減少や少子化が進む中にあっても、サッカーには人を育て、人と人をつなぎ、地域に活力を生み出す力があります。私たちはこれからも「サッカーの力で釧路を盛り上げる」という思いを胸に、世代や種別を超えたつながりを大切にしながら、活気ある釧路の再興に貢献してまいります。



釧路地区サッカー協会
理事長 高橋 健太

サッカーを通じた地域活性 と今後への課題

平素より本協会の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

6月12日から、みなさんが待ち望んでいた4年に一度の大きなイベントが始まりました。今朝日本代表の初戦であるオランダ戦が行われ、接戦の末土壇場で追いつくという価値のあるドロー発進となりました。残り2戦は連勝して、決勝トーナメント進出を決めてもらいたいところです。日本の初戦の結果がわかっていると言う事は、この原稿が締切り当日に書かれている事になります(笑)。

さて、Jリーグのシーズン移行に伴い、北海道の各地自治体によるキャンプの誘致活動が積極的に行われています(帯広市はあまり積極的には誘致してないようですが...)。

十勝では震災以降15年間にわたり、U-15クラブユース選手権大会を開催させてもらいました。本WCにも出場している、久保選手、堂安選手など代表で活躍している選手が多数十勝で試合をしてくれました。日本のトップレベルの試合を直接見る事ができたのは、十勝の同世代の選手にとって刺激となったことと思います。

また、チームスタッフ、選手、応援に来られた父兄等関係者による経済効果は大変大きく、受入れた初年度には、精米したお米が市内で不足したため、精米所が慌てて精米をしたという話もありました。

良いことがある反面、天然芝のグラウンドで1日3試合を連続3日間行うことによる、芝へのダメージは相当な物であり、大会終了後に別の大会を開催する際に、

グラウンドが使えず会場を変更せざるを得ないなど、地元のスタッフ、選手に負担をかけてしまうこともありました。

キャンプの誘致には、このようなことが起こることも想定されるので、関係各所と綿密な調整を行い、判断されればと思います。

苦言を呈すような事を書いてしまいましたが、決して受け入れを否定する意味で書いたのではない事をご理解いただければと思います。

これからも、HKFAはもとより道内各FAの皆様と連携しながら、北海道サッカーの更なる発展に寄与できればと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



一般社団法人
十勝地区サッカー協会
専務理事 大橋 穰

伝統を力に変える、 持続可能な組織づくり

2月に「室蘭市の出生数がはじめて300人を割った。」との驚きの報道がありました。また、本地区のサッカーとフットサルの登録数は、2月15日現在で、61チーム(前年比-2)、選手1523名(-150)でした。10年前の登録チームが約100チーム、選手が2519名であったことと比べると厳しい状況になっています。

子どもたちに目を向けてみると、グラスルーツや4種の地道な努力で、人口減・少子化の中、選手減少がゆるやかにになっていると思われます。また、登録していない一般の方がサッカーを楽しむ「フットボールデー」では、参加数が増え「このイベントをもっとやってほしい。」等の声もあり、今年度は2回開催としました。さらに、FC70室蘭が全道大会3連覇で全国への熱い思いをもって活動し続けています。地域人口における登録数の割合が低くない状況は、各種別での努力の積み重ねであると前向きにとらえています。

このような中、活動方針の「すべての指導者のC級スタンダードをめざす」について、C級受講者が増加し、育成への熱意が感じられる状況がうまれてきました。過去に比べると全国・全道トップレベルの成績からは遠ざかっていますが、熱い思いや伝統がなくなつたわけではありません。室蘭地区では、寒風の中、切磋琢磨し、折れない心としなやかな技を育んできました。たとえ時代が移り変わり、地域の姿がかたちを変え、縮小したとしても、グラウンドにしみこんだ汗と入江の芝生に宿る緑の記憶が育んだ「小学生からシニアの選手たちの瞳に宿る全道・全国・世界への熱い思い」が消えることはありません。



この文化を拡充・発展させるため、ビジョン「むろらんフットボールカルチャー」を共有しています。Wピラミッドの効果に加え、各種別の指導者が垣根を越え、交流し、語り合い、学び、勝負していくことで、「育成という背骨」が強固になるものと考えています。

そのためには、協会が持続可能な組織であることが基盤になります。組織・予算・人材育成…課題は山積していますが、10年後を見通した活動が求められています。次の協会を担う世代との協議を真摯に行い、組織体制を充実させ、新しいむろんのフットボールカルチャーをつくっていきたいと思います。今年度もよろしくお願いいたします。



室蘭地区サッカー協会
理事長 橋本 誠司

協会60周年の節目と 未来へつなぐ取り組み

2026年苫小牧地区サッカー協会は60周年を迎えることとなりました。

周年記念行事の一環として向こう10年の協会スローガンを公募して「夢と情熱を未来へ」に決定しました。協会発足から60年、幾多の諸先輩が未来への思いを胸にご尽力を賜り今の私たちがいます。そしてさらに私たちが未来へ夢と情熱を届けていくことが責務と心に誓うところであります。60周年記念の年にワールドカップイヤーを迎え、またJリーグの秋春制により多くのJリーグチームが北海道をキャンプ地とし苫小牧地区にも名古屋グランパスとFC東京の2チームがこの夏訪れます。初年度ということもありどのような展開になるか手探り状態ですが我々としても歓迎ムード作りに全力を傾けているところです。夢と情熱を未来につなげるためにも地区の子供たちがJリーグを身近に感じ今現在登録しているサッカー選手がより一層サッカーを好きになり、また未経験者がサッカーに興味を持てる機会になることを信じ我々が出来る全てのことにチャレンジしたいと思います。

夢と情熱を未来につなぐためにも登録チームと選手の数確保は不可欠であります。全道的にも地区としても非常に困難な状況となっております。苫小牧地区も10年前の登録者数が3214人・チームが139あったのが2025年度は2071人・83チームと登録者数で35%減、チーム数で40%減と大変厳しい状況となっております。

地区としてもあの手この手を駆使して普及活動等を進めておりますが抜本的な解決策の解はつかめておりません。少子化・人

口減は現実的に考えて歯止めがかかることはないと思われる中でも減少のスピードや大きさを最小限に止めるためにという視点に立ち情報収集力を高め効果的かつスピーディーな行動が求められます。

普及拡大については以上の通りですが強化の面として2025年度はうれしい結果が複数ありました。ASC北海道が全国社会人選手権北海道大会で優勝。苫小牧高専が全国高専大会北海道予選優勝。ハマナスガールズがJFAガールズゲーム北海道大会と全道フットサル選手権U12女子の部のダブル優勝。AreareaU15が全日本U15フットサル選手権北海道大会優勝と近年の中でも北海道大会の優勝が多く、しかも1種(専門学校)・3種・4種(女子)と種別においても多岐にわたった好成績を得られたのは地区においての強化が実った結果であると受け止めております。

サッカーを取り巻く環境のみならず混んとする社会情勢の中しっかりとしたビジョンをもって夢と情熱を未来につなげていきます。



苫小牧地区サッカー協会
理事長 野田 篤志

工夫と連携で支える 地域サッカーの継続



昨年度の活動を報告いたします。1種では社会人登録チームが1チームのみになってしまいましたが、大学生や高校生のチームを交えて計6チームで交流戦を行いました。フットサルでは、道北ブロックリーグに2チーム参加し、地区リーグは9チームで活動しました。2種は2チームのみでしたが、それぞれ道央ブロックリーグに参戦しました。3種は3チームですが、道央ブロックリーグに1チーム参加し、地区リーグは空知地区と共同開催し、計6チームで行いました。4種は6チームでリーグ戦、カップ戦を行いました。

女子は、本地区にはフットサルのNSレジーナしかありませんが、本地区で主管した第13回熊谷・高瀬杯にU-12の選手20名で参加し、12月の全道フットサル大会U-12女子の部に2チーム参加しました。

シニアでは、3月に本地区主管で開催された全道シニアフットサルオープン大会に40部門2チーム、50部門1チーム、60L部門に1チームが参加し、40部門ではNS VIVIが優勝を果たしました。

ウェルフェアオフィサー関係ですが、全チームではありませんが、ほとんどのチームにCWOを配置することができました。

今年度は各種のリーグ戦や大会の他にブロック大会、全道大会は12月に芦別市で全道フットサル選手権U-12女子の部、3月に滝川市で全道シニアフットサルオープン大会を主管する予定です。

本地区も登録チーム及び選手数が減

少し続けていますが、どの委員会もオープン参加も可能にしたり、カテゴリーや地区の垣根を越えて開催するなど、工夫を凝らして活動しています。今後は、従来から行っているキッズフェスティバルや巡回指導、ファミリーフェスティバルなどの内容を更に充実させ、少しでもチーム・選手数の減少に歯止めをかけることができたらと考えています。



北空知地区サッカー協会
理事長 鈴木 敏之

普及と育成で広げる 道北地区の可能性

道北地区サッカー協会においては、各カテゴリーで一定の登録はあるものの、チーム数および個人登録数が少なく、単独での大会参加が困難なケースも見られます。そのため、合同チームによる予選参加などの対応を行いながら存続に努めているものの、抜本的な解決策の確立には至っていないのが現状です。

これまで道北地区では、競技基盤を強化するためにキッズ年代を対象とした教室やフェスティバルなどの普及活動を継続して実施してきました。最近では参加者も徐々に増え、4種の低学年カテゴリーの活性化にもつながりつつあります。今後も子どもたちがサッカーの楽しさを実感し、保護者にもその魅力を共有してもらえよう、さまざまな工夫を取り入れながら継続的な取り組みを進めていきます。

そのような状況の中、4種女子では登録外の選手も含めて約20名が参加し、昨年度は定期的なトレーニングの実施やローカル大会に参加することができました。この動きを受け、本年度から新たに女子委員会を設置し、各地域で行われている大会への参加や定期練習など、女子選手のモチベーションを維持しながら活動をより積極的に推進していく事となりました。しかし、活動を支えるスタッフが不足していることも課題となっているため、シニア委員会とも連携しながら人材確保に努めるとともに、情報発信を強化し、女子サッカーの普及にも継続して取り組んでいきたいと考えています。

サッカーをこの地域で継続していくためには、楽しさを、世代を超えて共有し、

大人が選手としてだけでなく、審判・指導・大会運営など多様な形で関わり、基盤を支えることが重要です。今後も道北地区協会が一体となって計画的に取り組み、サッカーの魅力を広げる活動を進めていきます。



道北地区サッカー協会
理事長 谷口 直寿

目標を掲げて築く 根室地区の新たな歩み

本年度、根室地区サッカー協会設立20年となります。

設立当初に比べ登録チーム数・選手数は著しく減少傾向にあります。2030年度を見据え、新たに根室地区サッカー協会として、目標を設定しました。

一つ目、「サッカーを通じてみんなを楽しく笑顔にする」サッカープレイヤーだけでなく、試合の観戦者や指導者・家族といった、実際にプレーする人、見る人、支える人全員が楽しみ、笑顔になることで根室地区サッカーファミリーが大きく、強固なものとなること。

二つ目に、「サッカーで活躍する仲間を増やす」暴力や暴言、理不尽な指導をなくし、勝利至上主義にとらわれず、選手が安心して楽しめる場所を守り、喜びや人とのふれあいが体感できる環境を作り出すこと。

三つ目が、「トッププレイヤーを根室地区から輩出する」サッカーに関わる全ての人々がポジティブな体験を共有することで、ファミリーの輪が広がり、競技力の向上や社会全体の活性化（笑顔）へ繋がり、その経験を活かし、トップで活躍する選手・指導者・審判員を輩出すること。大きく3つの目標を掲げました。我々根室地区として、これからの5年間全力で取り組むこととしています。

地域は広いものの人口は他の地区に比べ少ない地区ではありますが、各カテゴリーが目的意識を持ち、地区協会として連携を強化することにより、できることを考え、キッズ、第4種世代

のパワーを第3種・第2種へとつなげていけるよう活動を推進していくことを長期的な取り組みとしていきたいと考えているところです。魅力のあるサッカー活動を推進していくことは可能であると思いますので、さらなる深化推進に向け活動を進めていきます。



根室地区サッカー協会
理事長 高橋 勇樹

夢きたれ

公益財団法人北海道サッカー協会ではサッカーの強化を図るため、トレセン活動の拠点として、また、サッカー愛好者皆様の合宿・研修所として北海道トレーニングセンターハウスを札幌アサッカーミュージアムパーク内に建設し、運営をしています。（2011年4月竣工）



宿泊室



シャワールーム



リネン室



談話室



ミーティングルーム

アクセス

◆車

雁来インターより約5分
伏古インター、札幌インターより約10分
地下鉄東豊線栄町駅より約15分

◆バス

- バスセンター⇄豊畑東 東6札苗線
「豊畑神社」下車、徒歩約12分
- 地下鉄環状通東⇄豊畑東 東68伏古札苗線
「豊畑神社」下車、徒歩約12分
- JR苗穂駅⇄豊畑 東雁来線56
「東雁来12条2丁目」下車、徒歩約7分



コミュニティホール

				宿泊収容人数	98名
1階	コミュニティホール(食堂)	1室	2階	宿泊室(1室8ベッド)	12室
	ロッカールーム(トイレ付)	2室		スタッフ室(2ベッド)	1室
	シャワールーム	2室		洗面所・トイレ	2室
	ミーティングルーム	2室		リネン室(洗濯機4台)	1室
	トレーニングルーム	1室		談話室	2室
	トイレ(男女)	2室		コミュニティホールや宿泊室に エアコン完備！	
	厨房	1室			
	ボイラー室・倉庫	1室			
	管理人室	1室			

施設概要

◆名称

北海道トレーニングセンターハウス
愛称「夢きたれ」

◆場所

札幌市東区東雁来12条3丁目1-1
札幌サッカーミュージアムパーク内

◆管理者

(公財)北海道サッカー協会

◆お問合せ

(公財)北海道サッカー協会

Tel 011-825-1100 (9:00~18:00※土日祝日は除く)